



| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

KAKEHASHI

患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌



医療従事者の皆さまへ

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ●ピックアップ

新型コロナウイルス感染症への対応

朝日丘小学校、海峰小学校、上庄小学校、窪小学校、
湖南小学校、十二町小学校、瀬浦小学校、比美乃、氷見市内児童から贈られた医療従事者応援メッセージ
朝日丘小学校、海峰小学校、湖南小学校、十二町

CONTENTS ●もくじ

TOPICS 新型コロナウイルス感染症への対応	P.01
薄田先生の診察室から	P.02
診療コラム	P.03
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.05
特集 親子ふれあい医療フェスティバル	P.06
まちかど情報	P.07
医療物資等のご寄付へのお礼	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



新型コロナウイルス感染症への対応

「これまでの取り組み、今後に備えた対策」

新型コロナウイルス感染症に係る対応には、大きく分けて、「①患者さん・来院者の方にお願する対策」、「②当院職員が取り組む対策」が挙げられます。

①患者さん・来院者の方にお願する対策

- ・発熱がある患者さんに対しては、通常の外来とは別の場所に専用の診察室を設けているため、患者さんには車の中で待機していただきます。
- ・病院の出入り口を一か所に制限し、通行可能な時間を短縮。
- ・流行期には、正面玄関で来院者全員を対象に、入館前の検温や症状確認を実施。
- ・飛沫感染予防のため、各受付窓口にアクリル板を設置。
- ・受付前に前後の間隔を空けた並び位置を設け、患者さん同士の密を回避。
- ・不急の来院患者を減らすために、電話診療・処方せん発行を実施。
- ・再診の患者さんで院内での検査等が不要の場合は、患者さんと医師との間で電話での診察を行い、できるだけ病院へ来院することを控えていただいています。

②当院職員が取り組む対策

- ・毎日、就業前に職員全員が検温・健康観察を実施し、感染対策室にて職員の健康状態を確認しています。
- ・不要不急の出張や外出を制限し、行動自粛に努めています。
- ・マスク等の感染防御用の資材についても、限られた資源の中で感染対策を行っています。

富山県内での感染症患者の発生数は、少ない状況ですが、第2波の発生を想定した対策が必要となっています。

患者さんや来院者の方には、ご不便をおかけしますが、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

今後の感染対策に係る病院の取り組み

現在、新型コロナウイルス感染症の患者さんを受入れるための病棟の運用、救急外来で患者さんが発生した場合の検査体制等を検討しております。

これまでは、富山県衛生研究所に依頼して行っていた新型コロナウイルス感染症の有無を調べ、PCR検査が民間企業でも出来るようになり、検査依頼先を拡大することに加えて、抗原検査

が実施出来るよう準備を行っております。今後、状況に応じて、段階的に取り組みを行なっていくにあたり、患者さんや市民の皆さんにご協力いただくこともあるかと思しますので、何卒ご容赦頂きたいと思っております。市民の皆様から多くのご支援をいただき、職員一同感謝しており、その期待に応えるよう最善を尽くしたいと考えております。



発熱外来診察室

薄田先生の 診察室から

総合診療科 助教

薄田 大輔
USUDA DAISUKE

昨 年度より総合診療科で勤務させて
いただいております。薄田大
輔です。

よろしくお願ひ申し上げます。
総合診療科の医師として分野を問わず
診療に当たらせていただいております。

新型コロナウイルス感染症
(COVID-19)の世界的流行が問題と
なっていますが、今の時期に合わせた
話題として、食中毒を含む感染性胃腸
炎について述べさせていただきます。

感染性胃腸炎は、細菌またはウイル
スなどの病原体による嘔吐、下痢、発
熱などを主症状とする感染症です。一
年を通じて報告され、冬季から春季に
かけて、ウイルス性胃腸炎(ノロウィ
ルスやロタウイルスなど)が多く報告
されますが、夏季には細菌性胃腸炎
特に食品を介した食中毒事例が多く報
告され、食中毒の集団発生など、時に

大規模な事例が起こることもありま
す。厚生労働省の食中毒統計によると、
夏季の食中毒の原因として、カンピロ
バクターが最も多く、全体の3/4を
占めます。

食中毒を起こさない対策として、食
物には火を通す、調理後速やかに食べ
る、保存する場合は10℃以下か55℃
以上を保つことで菌の増殖を抑制でき
ます。

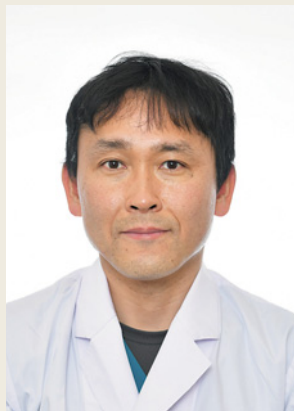
新型コロナウイルス感染症の流行に
より、外食を控え、持ち帰り弁当を提
供する飲食店が増えました。気温の上
昇により、食中毒のリスクが高くなっ
ていることから、販売店、購入者共に、
手洗い、手指衛生の励行などの基本
的な感染予防に加え、食品の温度管理に
も気をつけましょう。

今年の夏が、皆様にとって楽しい夏
となりますように!!

細菌による食中毒の原因と特徴

病原体	代表的な原因食材	菌の特徴	臨床症状
カンピロバクター	鶏肉(さしみ、たたき、など)、 牛肉(加熱不足)	少量の菌で感染	嘔吐、下痢、血便、発熱
サルモネラ	鶏肉、鶏卵、 卵加工食品(生クリームなど)	乾燥や低温に強い	嘔吐、下痢、血便、発熱
黄色ブドウ球菌	ブドウ球菌に感染した人が手で 触れた食材	耐熱性毒素を産生 (増殖後は加熱無効)	嘔吐、下痢(発症までが短時間)
腸炎ピブリオ	魚介類(海水魚)	塩水中でよく発育	激しい腹痛、下痢、血便
腸管出血性大腸菌 (O157など)	牛肉(生食)、 肉加工食品(加熱不足)	少量の菌で感染	激しい腹痛、出血性下痢、腎不全、 脳症(HUS)
ウェルシュ菌	食肉など自然界に広く分布、 耐熱性で加熱しても生存	大量調理後、室温放置した食品で 増殖(空気がない内部)	腹痛、下痢
ノロウイルス	かきなど二枚貝、感染者が汚染し た食材・物品・環境	少量のウイルスで感染、 冬場に多い	嘔吐、下痢

薄田 大輔 ★ 略歴



【学歴・職歴】

- ◎平成16年3月 自治医科大学医学部卒業
- ◎平成16年4月 富山県立中央病院 初期臨床研修医
- ◎平成18年4月 南砺市民病院 内科 医員
- ◎平成20年4月 南砺市利賀診療所 所長心得
- ◎平成21年4月 あさひ総合病院 内科 医員
- ◎平成24年3月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科修士課程熱帯医学専攻卒業
- ◎平成24年4月 金沢医科大学氷見市民病院 総合診療科 助教
- ◎平成25年4月 富山県厚生部医務課 医師・看護職員確保対策班 副主任
- ◎平成26年4月 富山県厚生部医務課 主幹
- ◎平成27年4月 金沢医科大学 臨床感染症学 助教
- ◎平成28年3月 金沢医科大学大学院医学系研究科総合医学(地域医療学)卒業
- ◎平成30年4月 Medical Research Council Unit The Gambia at the London School of Hygiene & Tropical Medicine, Visiting researcher
- ◎平成31年4月 金沢医科大学氷見市民病院 総合診療科 助教

【資格・所属学会】

- ◎日本感染症学会感染症専門医
- ◎日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、指導医
- ◎日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医、指導医
- ◎日本外傷診療研究機構Japan Advanced Trauma Evaluation and Care (JATEC) プロバイダー
- ◎臨床研修指導医
- ◎日本感染症学会認定ICD
- ◎日本内科学会認定内科医、総合内科専門医

診療コラム

臨床研修センター

臨床研修センター長 からの一言

当院では、『診療』・『研究』・『教育』の3本柱を軸にバランスのとれた初期臨床研修を実現しています。

日常的に各科の垣根を超えた診療が行われ、指導医間での意思疎通が十分行われている環境



が構築されており、初期臨床研修にもその特徴が生かされています。広い視野を持って診療にあたるには、複数診療科が容易に診療に参加できる病院環境は極めて重要であり、これらの環境は、中核病院ならではの特徴的な環境です。

加えて、臨床現場の第一線で、即戦力として豊富な臨床経験が可能となっているため、2年間で多くの臨床技術の習得が行えます。当院は、北陸では初めてとなる大学病院直属の中核病院であり、分院的な役割を担っています。『臨床を学ぶ』という最大の使命に加え、多くの臨床経験の中から『研究を学ぶ』姿勢を持ち、指導医の研究に触れ、医学研究の基礎を習得していきます。当院では、これまでに17名が研修を修了し、多方面で活躍



教育研修棟

しています。現在、2年次1名、1年次3名(たすぎがけ1名含む)の計4名が将来の良医を目指し研修に励んでおり、彼らの初期臨床研修を実りある2年間とするため、ともに診療を行い、考え、議論を重ね、未来へつながる初期臨床研修を一丸と行っていききたいと考えています。



金沢医科大学永見市民病院
副院長 循環器内科 教授
臨床研修センター長 福田 昭宏

当院は地域医療の中核病院として、救急医療から慢性期疾患までを含めた幅広い診療を行っています。診療業務が、病院の主たる機能であることは言うまでもありませんが、大学病院や中核病院では、医師のみならず、全ての医療従事者の育成も非常に重要な役割となっています。教育機関として若い人材の育成を積極的に行うことは、地域医療に貢献するスタッフへの成長と継続的な地域医療の提供のために必要不可欠と考えています。

臨床研修を終えて活躍する先輩医師



研修期間 H24・4・1～H26・3・31
金沢医科大学氷見市民病院
呼吸器内科 山田 真也

患者さんやスタッフとの信頼
関係から生まれるチーム医療

呼吸器内科の山田真也です。研修医の頃より当院で勤務し、今年で勤続9年目になりました。当院は氷見市に唯一の中核病院であり、幅広い年齢層の患者さんが連日多く来院されるため、各科の専門的知識はもちろんのこと内科医として幅広い知識が必要とされま

す。普段の外来をはじめ救急外来、発熱外来等を通して多くの患者さんの診察に携わることで日々、必要な知識と経験を積ませていただいています。

当院呼吸器内科は現在3名の常勤医が在籍しており、肺炎治療や肺癌の化学療法をはじめ、幅広い診療を行っています。治療は入院が主となる事も多いため、看護師を始め薬剤師、リハビリ療法士、管理栄養士、社会福祉士など多くのスタッフが丸とわり、情報共有や連携をしっかりと取ることで質の高いチーム医療を患者さんに提供できるよう、日々試行錯誤を繰り返しています。

突然ですが、当院では全職員が病院内でどなたとすれ違っても挨拶をします。

これは一見当たり前前のようですが先に示したチーム医療を円滑に行い患者さんとの信頼関係を作っていくために一番大切なことだと思っています。

私がこの病院に長く在籍できているのも、挨拶やコミュニケーションによって培ったスタッフとの信頼関係があることや、患者さんからも声をかけていただけ、良い仕事環境があるからだと感じています。

新型コロナウイルス感染症の影響で患者さんは現在も多くの不安を抱え、スタッフは感染ケアなど普段以上に多忙な日々が続いていると思います。氷見市民病院一丸となり、コロナに立ち向かい、より安心して療養できる病院になつていくよう頑張りますので、これからもよろしくお願い致します。

研修期間 H28・4・1～H30・3・31
金沢医科大学 産科婦人科学
佐伯 吉彦

氷見での初期臨床研修を終えて

こんにちは。平成28年から平成30年の間、氷見市民病院での初期



臨床研修をさせて頂いていた佐伯吉彦です。今は金沢医科大学の産科婦人科学教室にて産婦人科の勉強をしています。

僕が氷見市民病院での研修で印象に残っていることは先輩、スタッフの皆さんの優しさです。先輩の先生方に始まり、看護師さん、検査技師さん、薬剤師さん、リハビリスタッフさんなど多くの方に助けられ、多くのことを教えて頂きました。今の僕の基盤は氷見市民病院で築き上げられたのは間違いないと思います。

これからは、産婦人科医としての力をつけ、いざれ氷見に貢献するとういう形で少しでも恩返しが出来たらなと思っています。

氷見ロータリークラブからマスク寄贈 市内児童147名の応援メッセージも

令和2年4月30日(木)、氷見ロータリークラブからマスク4千枚が寄付されました。また、併せて氷見市内の小学校と義務教育学校の児童147名から、新型コロナウイルス感染症の治療の最前線で働く医療従事者を応援する寄せ書きも贈られました。

寄せ書きには、「みんなの命を守るために一生けん命働いてくださってありがとうございます」と「おからだに気をつけてがんばって」、「コロナにかつぞー」など、児童の思いが詰まっています。院内エントランスに掲示した寄せ書きは、医療現場の活力になっています。



【メッセージ寄稿小学校】

- 氷見市立朝日丘小学校、氷見市立海峰小学校
- 氷見市立上庄小学校、氷見市立窪小学校
- 氷見市立湖南小学校、氷見市立十二町小学校
- 氷見市立灘浦小学校、氷見市立西の杜学園前期課程
- 氷見市立比美乃江小学校、氷見市立宮田小学校

病院からのお知らせ掲示板

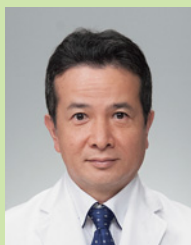
● 整形外科の診療体制が変わりました！

7月1日から、整形外科に新しく3名の医師が着任しました。
1名増員となり、よりいっそう市民の皆さまに、質の高い医療を提供できるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひします。

外来診療担当表

土	金	木	水	火	月	曜
	横山	三治	藤井	横山	米澤	初診
	米澤	藤井	藤井/松本	藤井	藤井	再診
交替	三治	藤井	横山	三治	横山	再診

教授・科長 横山 光輝



名誉教授 松本 忠美



新任 助教 米澤 克隆



新任 助教 藤井 正文



新任 医員 三治 雄輔



● お盆休診のお知らせ

8月15日(土)は、夏季休業(旧盆)のため、外来診療を休止します。
緊急の場合や救急患者さんについては、常時救急外来にて対応します。

● 「きときと健康チャンネル」放送のお知らせ

能越ケーブルネット放送の氷見市広報番組「もつと知りたい・伝えたい氷見市政」の中で、「きときと健康チャンネル」と題した当院のコーナーを毎月放送しています。
毎回、病気や健康に関する身近な話題をテーマに、当院の医療スタッフが出演し、市民の皆様の健康に役立つ情報をお届けします。ぜひご覧ください。

1-8月 放送予定

テーマ 「口腔内とからだの健康」

〜正しい口腔ケアで病気予防〜

出演 歯科口腔外科 歯科衛生士

放映 令和2年8月2日(日)〜8月8日(土)

1日3回(6時〜、15時〜、20時〜)

【番組概要】

能越ケーブルネット放送「ひみちゃん9」
氷見市広報番組「もつと知りたい・伝えたい氷見市政」番組内10分コーナー
※毎月第1週(日)〜(土)
1日3回(6時〜/15時〜/20時)



過去の開催内容

開催年	内容
第1回 (平成24年)	①「からだのふしぎ」 総合診療科 神田 享勉 ②「心臓のしくみ」 胸部心臓血管外科 坂本 滋
第2回 (平成25年)	①「こどものスポーツ障害」 整形外科 池淵 公博 ②「大切なものは、目に見えない？」 総合診療科 神田 享勉
第3回 (平成26年)	●講演「けんこうのヒケツ」 小児科 講師 藤木 拓磨 ●医療相談「こどもに特有な病気」 司会：総合診療科 神田 享勉
第4回 (平成27年)	①「体を強くしよう」 整形外科 池淵 公博 ②「食事で強くなろう」 内分泌・代謝科 伊藤 智彦 ③「心を強くしよう」 総合診療科 神田 享勉 ④「美容皮膚科について」 皮膚科 渡邊 晴二
第5回 (平成28年)	●実演「ドクターヘリ・救急車を見てみよう！」 富山県立中央病院 救急救命センター、氷見市消防本部 ●講演「いきいきとした命のためやる気スイッチオン！」 総合診療科 神田 享勉 ●体験型講演「食品をグループ分けしてみよう！」 栄養部 長谷 恵
第6回 (平成29年)	①「おねしょの話」 小児科 藤木 拓磨 ②「肺のしくみと呼吸の病気を知ろう」 呼吸器内科 井口 晴品 ●体験型講演「医者になるための試験『医師国家試験』ってどんなもの」 循環器内科 福田 昭宏
第7回 (平成30年)	●講演「昔からの頭の言い伝え。ウソ？ホント？」 脳神経外科 高田 久
第8回 (令和元年)	●講演「理科の実験って大切な？～腎臓のはたらきと理科の実験で考える透析治療～」 腎臓内科 齋藤 淳史

医療体験コース

- ・手術室見学
- ・放射線 3D 画像体験
- ・看護体験
- ・縫合体験
- ・心電図検査体験
- ・くすり調剤体験
- ・中央臨床検査部見学
- ・腹腔鏡・内視鏡体験
- ・超音波体験
- ・模擬手術体験
- ・(除細動) 心拍を再開させよう体験
- ・手洗い検査体験
- ・ギプス・リハビリ体験
- ・聴診器による心音・腹音・血圧測定体験

夏休み親子ふれあい医療フェスティバル
令和2年度開催中止・過去8回を振り返って

今年の「夏休み親子ふれあい医療フェスティバル」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に開催中止となりました。

当イベントは、新病院開院一周年記念事業として、感性豊かな小中学生の皆さんに、医療体験を通じて医療への興味を持ってもらうことで、「いのち」の大切さを感じてもらうことを目的に、平成24年に第1回を開催以降、毎年恒例行事として、昨年までに延べ

1,013名の小中学生親子に参加して頂きました。

本誌「かけはし」でも毎回開催の様子を紹介してきましたが、今号では、第9回を掲載できない代わりに、これまでの開催を振り返りたいと思います。

皆様と共に新型コロナウイルスに打ち克ち、来年こそは安全に第9回を開催できることを職員一同楽しみにしております。



第3回(平成26年)
心臓マッサージ
開始します!!
③(除細動)心拍を再開させよう体験コース



第1回(平成24年)
高島病院長(当時)と
内視鏡カメラに挑戦!!
内視鏡体験コース



第6回(平成29年)
手術室には機械が
いっぱい!
手術室見学コース



第5回(平成28年)
氷見市民病院に
ドクターヘリが
やってきた!
ドクターヘリ・救急車
を見てみよう!



第8回(令和元年)
上手におくすり
作れるかな?
⑦くすり調剤体験コース

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関を受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

ヒミーツ～Himi Eats～

氷見市内の飲食店応援プロジェクト

読者の皆様、こんにちは。
6月に緊急事態宣言が解除されましたが、新たな日々をどうお過ごしでしょうか？

さて、新型コロナウイルスの感染拡大防止による外出自粛の影響から、地元氷見の飲食業界は致命的なダメージを受けています。

売り上げ減に歯止めを掛ける狙いで、4月12日に、氷見市内でテイクアウトを実施している飲食店の紹介サイト「ヒミーツー Himi Eatsー」が開設され、氷見市内の飲食店18件が賛同し、現在は55件(6月時点)と登録件数が大幅に増加しています。

このサイトでは『氷見市内どこでも』・『電話一本』・『配達料0円』・『お店の味を手軽に』をキャッチコピーに、各店舗のテイクアウト情報や定休日等が掲載されており、注文は、登録店舗からお店を選んで、ヒミデリセンターに電話をかけるだけ！！配達は、氷見の隅々まで知られている『平和交通』とタッグを組み、氷見一丸となって地元のお店を守ろうとする気持ちが感じられますね。

現在も感染予防の観点から、直接お店で飲食することに、まだまだ慎重になりがちですが、馴染みの飲食店への応援の意味も込めて、お店自慢の味を、職場や家庭で楽しんでみてはいかがでしょうか？

医療物資等のご寄付へのお礼



新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大に伴い、全国的に医療物資等が非常に不足している中、民間企業様、患者・地域住民の皆様から様々な温かいご支援・ご寄付のお申し出をいただいております。

ご寄付を賜りました皆様にあらためて心より御礼申し上げます。

いただいた医療物資は、感染症対策に従事するスタッフで大切に使用させていただきます。

1日も早い事態終息を願い、皆様からの温かいご支援、ご声援を励みに、職員一丸となって、安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。

表紙について

氷見市内の児童147名から贈られた、新型コロナウイルス感染症の治療の最前線で働く当院医療従事者を応援するメッセージ。

編集後記

ロンドンでペストが大流行した1665年、アイザック・ニュートンは通っていたケンブリッジ大学が2年間休校となり、故郷へ戻りました。その時に微分積分・光学・万有引力の法則を発見したのは有名な話です。

このペストによる休校期間は「創造的休暇」とも呼ばれています。

表紙のメッセージを寄せてくれた小学生たちも新型コロナウイルス感染症による休校を経験しました。コロナウイルスの感染拡大の第2波、第3波により再び休校になるかもしれません。しかし、ニュートンのように自由な時に、資質が開花するかもしれません。そう考えれば、時間のゆとりを、思考のゆとりと捉えることができれば、自分の可能性を最高に引き出して、新しい発見が生まれるかもしれません。

かけし夏号編集委員 総務課 坂田 慎一

■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。